

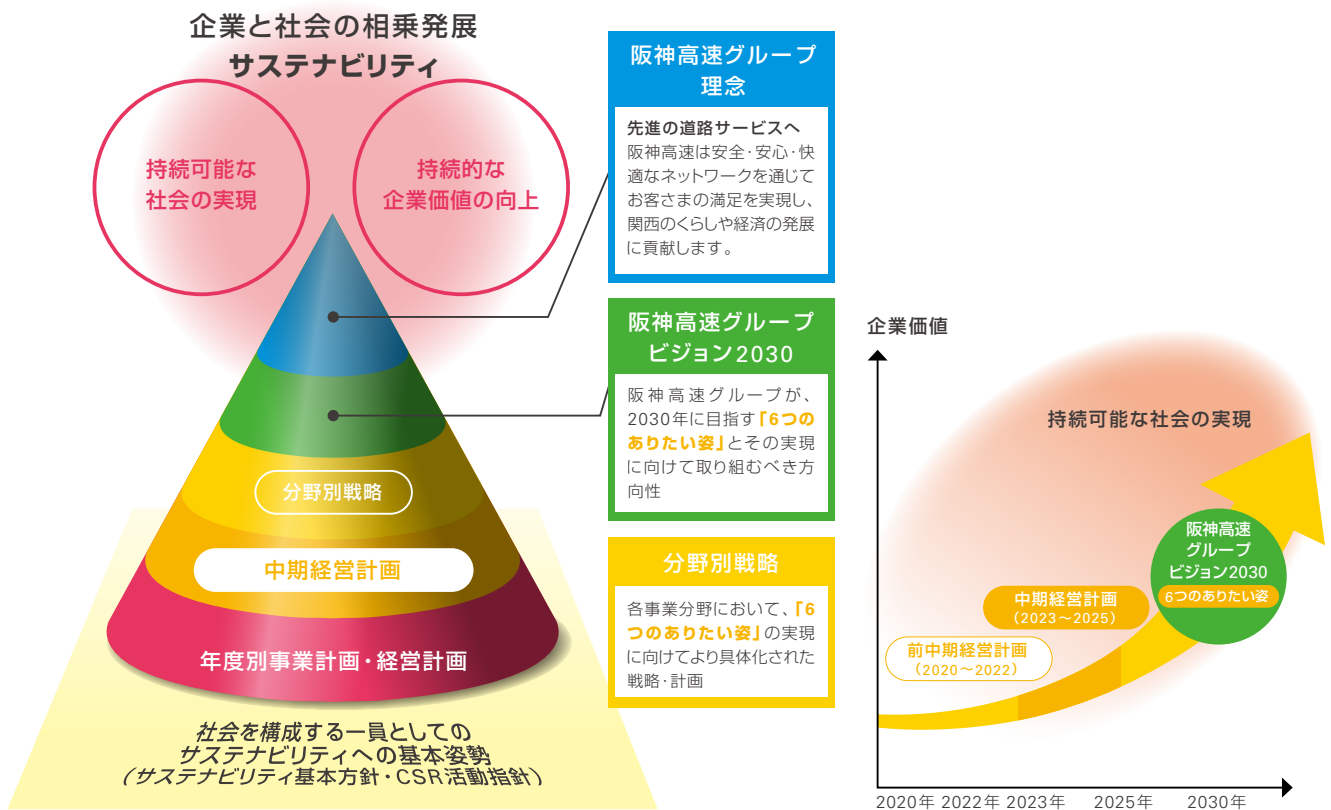
# 阪神高速グループ 中期経営計画

## 新中期経営計画 (2023~2025)

阪神高速グループは、社会を構成する一員としてサステナビリティを共通の価値観と認識し、阪神高速グループ理念と阪神高速グループビジョン2030を実現するために、分野別戦略を踏まえ、2023~2025年度の3か年に取り組むべき具体的な計画として、中期経営計画を策定しました。

本計画は、ビジョン2030の「6つのありたい姿」の実現に向けた計画であるとともに、当社グループが大阪・関西万博に貢献し未来社会を描くためのアクションプランとして、DXや、2050年のカーボンニュートラルを目指したGXを推進する取り組みを含め、3年間に取り組む具体的な施策を計画したものです。今後とも、関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速グループとなるよう、グループ一丸となって、本計画を推し進めていきます。

### 中期経営計画の位置付け



### 阪神高速グループのサステナビリティ経営

環境・社会課題がグローバルに拡大し、国や自治体だけでなく、企業、個人など社会全体で課題を解決し、持続可能な社会を実現することがより一層求められている現代社会において、社会を構成する一員としてのサステナビリティへの基本姿勢(サステナビリティ基本方針およびCSR活動指針)を土台(大切に作るマインド)とし、その上に経営マネジメント体系を築いてグループ理念の具現化を図り、ひいては企業と社会の相乗発展を目指すこと。

「6つのありたい姿」と大阪・関西万博に対する取り組み

### 1 最高の安全と安心を提供する阪神高速

- ◆ リニューアルプロジェクトの着実な推進
- ◆ 災害に強い阪神高速
- ◆ 交通安全対策・良好な走行環境の確保
- ◆ より合理的で効率的な維持管理の実施

数値目標

死傷事故率 2025年度目標値	快適走行路面率 2025年度目標値	橋梁・トンネル・附属物の 点検実施率 2025年度目標値
10.0 件/億台km	97%	100%

### 2 もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

- ◆ ネットワーク整備の推進
- ◆ 新しい技術を活用した渋滞対策の推進
- ◆ ETC専用化の推進
- ◆ お客さまにわかりやすい情報提供と新たなサービスの展開
- ◆ パーキングエリアの快適性・利便性の向上

数値目標

渋滞損失時間 2025年度目標値	ETC専用料金所 2025年度目標値	各PAの提供サービス 2025年度目標値
870 万台・時	110 カ所程度	4.3

※ お客さま満足度：5段階評価

### 3 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

- ◆ 大規模プロジェクト等のハード技術の開発
- ◆ シームレスで高度なインフラマネジメントの推進
- ◆ 将来を見据えた新たな技術の開発
- ◆ パーソナライズされた安全・安心・快適なモビリティサービスの実現
- ◆ 卓越した技術力・ノウハウの強化

### 4 お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

- ◆ 関西の発展に向けた多彩な事業の展開
- ◆ 国際事業の推進

数値目標

関連事業の営業収益(連結) 2025年度目標値	関連事業の営業利益率(連結) 2025年度目標値
60 億円	14%

### 5 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速

- ◆ 社会経済活動の活性化や都市構造の強靱化
- ◆ 環境経営推進・脱炭素社会への挑戦
- ◆ 地域との連携・地域社会の活性化
- ◆ 社会貢献活動

数値目標

道路照明のLED化によるCO <sub>2</sub> 排出削減量 2023~2025年度合計目標値
62.2 t-CO <sub>2</sub>

### 6 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

- ◆ ステークホルダーの声を反映した経営と信頼性の向上
- ◆ 働きがいを実感できる働き方改革・ダイバーシティ&インクルージョンの推進

数値目標

お客さま総合満足度 2025年度目標値	女性採用 2025年度目標値	男性の育休取得率 2025年度目標値
4.0	4割	100%

※ お客さま満足度：5段階評価

大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速

交通円滑化への貢献

パーキングエリアでのインバウンド対応等の  
パーソナルサービス

大阪・関西万博の気運醸成につながる  
地域のにぎわい創出

新たなプロジェクトへのチャレンジによる  
価値の創造

## 前中期経営計画(2020~2022)達成状況

前中期経営計画は、構造物の老朽化や自然災害の激甚化、関西の成長に向けたミッシングリンクの整備への期待と大阪・関西万博の決定、高速道路における交通安全上の課題の顕在化といった経営環境を踏まえて策定しました。計画期間中、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況下においても、重点施策であるリニューアルプロジェクト、災害対応力の強化、ネットワーク整備の推進、お客さま満足の向上を中心にグループ一体となって取り組んできました。関連事業においては、一層の事業規模拡大に向けて事業を展開した結果、営業収益、営業利益ともに目標を達成しました。

### 数値目標の達成状況

ありたい姿	指標	単位	2022目標値	2022実績値	コメント
1	交通事故件数	件	4,200	4,534	交通事故件数は過去から減少してきているが目標達成には至らなかった
1	快適走行路面率 (良好な走行路面の割合) <sup>*1</sup>	%	97	96	前回補修から時間が経過した路線での損傷が進行したため
1	機能低下があり、対策を要する 損傷の補修率 <sup>*2</sup>	%	100	100	達成
1	道路照明LED化率(本線照明)	%	58	63	達成
2	年間総渋滞損失時間 (万台・時) <sup>*3</sup>	万台・時	880	1,071	大規模更新・修繕事業の影響によるもの
2	ETCお知らせアンテナ設置	箇所	15	15	達成
2	ETC2.0利用率	%	30.0以上	29.6	ほぼ達成
2	各パーキングエリアの 提供サービス (お客さま満足度(5点満点評価))	点	4.3	4.0	お客さま満足度は過去から向上してきているが目標達成には至らなかった
2	パーキングエリア数や設置箇所 (お客さま満足度(5点満点評価))	点	4.0	3.6	お客さま満足度は過去から向上してきているが目標達成には至らなかった
4	関連事業の営業収益(連結)	億円	58	59	達成
4	関連事業の営業利益(連結)	億円	8.5	10	達成
5	本線道路照明LED化による CO <sub>2</sub> 排出の抑制量 <sup>*4*5</sup>	kg-CO <sub>2</sub>	300,600	233,800	CO <sub>2</sub> 削減効果が高いトンネル部の着工が遅れたため
5	特定調達物品における グリーン調達率	%	100	99.7	ほぼ達成
6	お客さま満足度(5点満点評価)	点	3.9	4.0	達成

※1 快適に走行できる舗装路面の車線延長÷全車線延長

※2 損傷の補修率=(当該年度における修繕完了件数)÷(当該年度計画上の修繕予定件数)(%)

※3 渋滞が発生し走行速度が低下することによりお客さまが1年間に損失した時間の総和

※4 CO<sub>2</sub>排出の抑制量は、関西電力株式会社2018年度調整後排出係数(0.334)に固定して算出

※5 2020年からの施策による効果